

イタリア現地取材

イタリアのダ・ヴィンチ研究
第一人者たちが語る
レオナルドの意外な素顔と新事実！

The truth of the scientist

科学者レオナルド・ダ・ヴィンチの真実

空前のベストセラーとなった「ダ・ヴィンチ・コード」。

しかし、そこにはレオナルドの人物像は何も語られていない。

芸術にも科学にも秀でた万能の天才レオナルドは、どんな人物だったのだろうか？

誰もが興味を持つレオナルド・ダ・ヴィンチについてより深い理解を得ようと、本誌はレオナルド生誕のヴィンチ村から、

彼の活躍したフィレンツェ、ミラノを訪ねて、第一線のイタリア人研究者3人に“レオナルドの真実”を聞いた。

3つのインタビューには、日本では聴けない意外なレオナルド像が、

あなたのレオナルド像を大きく変えてしまう新事実が、生き生きと語られている！

レオナルドについては、その多くが謎に包まれている。

有名な自画像すら本人のものではないとする説があり、人物像については研究者によっても見解が微妙に異なる。

そんなことも念頭において、500年前の偉大な人物に、自由に思いを馳せていただきたい！

構成・文/上浪春海 *Huuni Uenami* 写真/松原 東 *Tou Matsubara* コーディネイト・通訳/富岡まゆみ *Mayumi Tomioka* 石橋典子 *Noriko Ishibashi*

ミラノ・スカラ座前の広場に立つレオナルド像。傑作「最後の晩餐」は、ここミラノのサンタ・マリア・デッレ・グラーツィエ教会の修道院の壁面に描かれている。20年に及ぶ壁面の徹底した洗浄・修復が行われ、1999年、レオナルドが完成させた当時の壁面に生まれ変わった。現在、世界的なレオナルドブームのため、この絵を見るには数か月前からの予約が必要。

Leonardo da Vinci

レオナルド・ダ・ヴィンチ基礎知識



Amboise

ヴィンチ出身のレオナルドがたどった足跡

レオナルド・ダ・ヴィンチの名は、ヴィンチ村のレオナルドという意味である。つまり彼の姓は地名を表している。レオナルドは1452年、フィレンツェ近郊のヴィンチ村に生まれた。父は法的文書の作成に従事する公証人で、経済的にも豊かな教養人だった。レオナルドはヴィンチ村で恵まれた少年時代を過ごし、ここで自然への関心を培われる。10代でフィレンツェに出て画家の修行を始め、早くからその才能を認められるが、確たる地位を築けぬままフィレンツェを去る。当時の芸術家や技術者は、自分を招き抱えてくれる領主が必要で、その後レオナルドはミラノ公スフォルツァに迎えられた。ここで「最後の晩餐」を制作する。また、科学や技術の研究にも打ち込む。やがてミラノがフランスに攻められるとイタリア各地を移動するが、晩年はフランス王フランソワ1世に招かれ、中部フランスのアンボワーズ近郊で生涯を終えた。



「最後の晩餐」



レオナルドの生家といわれている建物



レオナルドの生涯

- 1452 0歳～レオナルド、フィレンツェ近郊のヴィンチ村に生まれる。
- 1465 13歳～このころから、フィレンツェのヴェロッキオ工房で働き始める。
- 1473 21歳～このころヴェロッキオの「キリストの洗礼」の風景の一部と天使、「受胎告知」を描く。
- 1482 30歳～ミラノ公、スフォルツァの宮廷に招き抱えられる。99年までミラノ滞在。宮廷画家として仕えるほか、科学・工学研究や宮廷の催事企画にもたずさわる。
- 1495 43歳～「最後の晩餐」制作開始。
- 1498 46歳～「最後の晩餐」完成。
- 1499 47歳～フランス軍がミラノを占領。レオナルド、ミラノを脱出する。
- 1500 48歳～マントヴァ、ヴェネツィアを経て、フィレンツェへ。第二フィレンツェ時代。
- 1503 51歳～このころ、「モナリザ」の制作に着手。
- 1506 54歳～フランスのミラノ総督から招聘されミラノへ。
- 1513 61歳～教皇の弟ジュリアーノ・デ・メディチに仕えるためローマへ。ラファエロ、ミケランジェロの名声の陰で科学・工学的研究に集中。
- 1516 64歳～フランス王フランソワ1世の招きに応じフランスへ。アンボワーズ近くのクレー城に居所を与えられる。
- 1519 67歳～クレー城で死去。

世界の歴史

- 1449 足利義政が室町八代将軍となる。
- 1453 オスマントルコ、東ローマ帝国を滅ぼす。
- 1467 応仁の乱(戦国時代始まる)。
- 1475 ミケランジェロ生まれる。
- 1483 ラファエロ生まれる。
- 1492 コロンブス、大西洋を横断して西インド諸島に到着。
- 1517 ルターが「95箇条の意見書」提出。宗教改革の端緒となる。
- 1522 マゼランの船隊が世界周航を果たし、地球が球体であることを実証。



「キリストの洗礼」
師匠ヴェロッキオとの共作



「受胎告知」

レオナルドの生きたルネッサンスという時代



ルネッサンスはフィレンツェで花開いた。

ヨーロッパでは、5世紀に西ローマ帝国が崩壊した後、キリスト教の信仰が個人の精神世界までをきびしく支配する中世という時代に入っていた。そこでは、人間的な要素の強い古代ギリシャ・ローマの古典文化は忘れられていった。1000年近くに及ぶ停滞の中世を経て、14世紀にイタリアで古典文化を見直す大規模な文化運動が起こった。それがルネッサンス(フランス語で“再生”の意味)である。ルネッサンスは哲学、文学、美術、音楽、科学、技術……と、あらゆる分野に及び、16世紀にかけてイタリアからヨーロッパ各地に広がっていった。人間のありのままの姿(人間性)と理性を尊重したルネッサンスの生み出した学問や芸術は、のちのヨーロッパ近代文明の出発点となった。レオナルドは、ミケランジェロやラファエロと並ぶルネッサンスを代表する芸術家であるが、この時代の芸術家には、建築や科学技術にも長けた人物が少なくない。

画家としてのレオナルド

「モナリザ」や「最後の晩餐」を描いたレオナルドは、その画家としての名声の割にごくわずかな絵画作品しか遺していない。彼は、10代の早い時期にフィレンツェの美術工房に弟子入りして画家としての道を歩み始め、生涯にわたって絵筆を持ち続ける。ところが、完成作といわれるものは20代に描いた「受胎告知」(フィレンツェ、ウフィツィ美術館)、30代の「岩窟の聖母」(ルーブル美術館)、40代の「最後の晩餐」(ミラノ、サンタ・マリア・デッレ・グラーツィエ教会壁画)のみであり、他の作品は「モナリザ」(ルーブル美術館)も含めて未完成作品。絵画はすべてをあわせても10点に達しない。彼は、彫刻や建築にも秀でていたといわれる。しかし、それも制作途中まで進んだという記録やスケッチは存在するが、形のある作品はひとつも遺していない。同時代のミケランジェロやラファエロがたくさんの絵画や彫刻作品を遺したのと対照的である。



世界一有名な肖像画「モナリザ」。一度も手放すことなく、死の前まで筆を入れ続けたといわれている。

科学者・技術者としてのレオナルド

レオナルドは、少年時代から自然を事細かに観察して、科学者としての目を自ら育てていた。10代の早い時期にヴェロッキオの工房に弟子入りしたが、ここでは絵画の他に彫刻や各種装飾品など、様々な美術品を制作していた。ここで、レオナルドは各種の技術を習得する。レオナルドは、芸術家として才能を開花させると同時に、技術者としても腕を磨き、さらに古今東西の学問を収めた書物をたくさん読み、また同時代の先輩や師からも教わって、科学・技術の面でも幅広く深い学識を身につけていった。その学識をもとに、自然現象の観察や考察を行い、あるいは彼ならではの卓越したデッサン力や当時の科学技術を記録し、さらに独自の改良も加えて数々の機械装置を考案した。その多くは200年も300年も未来を先取りする発明だったが、彼の生前に公表されることなく、死後も「手稿」と呼ばれる彼自身の研究ノートの中にスケッチや説明文とともに眠り続けた。

レオナルドが残した膨大な数の手稿とは

レオナルドは、20代から生涯にわたって、科学や工学、芸術に関する自らの観察や思考内容を詳細なスケッチと共にノートに書き続けた。「手稿」といわれるこのノートは12000ページに及んだといわれるが、彼の死後散逸し、現存するのはそのうちの約8000ページである。手稿はミラノ、ロンドン、パリ、マドリッドなどに分散して保管され、アトランティコ手稿、ウィンザー手稿、マドリッド手稿などと呼ばれている。手稿中には、ふるくの「ヘリコプター」や羽ばたき飛行機をはじめとする飛行に関する研究、人体の詳細な解剖図、自動機械や建築のアイデア、絵画のデッサン、当時の機械のスケッチ……など、ひとりの人間がこれほど多方面に興味と深い理解を示せるのかと感嘆する多彩な内容が記されている。だが残念なことに、その価値は19世紀まで誰にも評価されることがなかった。レオナルドが、万能の天才と呼ばれる理由は、この手稿の内容による。



手稿のサイズは大小さまざま。ポケットサイズの小さな手稿もある。持ち歩いて、気づいたことをメモしていったのだろう。